

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	卒業研究（Graduation Thesis）		
ナンバリングコード	P41703	大分類 / 難易度 科目分野	情報メディア学科 専門科目 / 総合レベル ゼミナール
単位数	6	配当学年 / 開講期	4 年 / 通年
必修・選択区分	必修 ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	P170302	クラス名	濱田研究室
担当教員名	濱田 大助		
履修上の注意、履修条件	当該科目の開講年度までに履修すべき科目を履修していることが望ましい。日本語を使用し情報システムに関する内容の講義であることから、国内における事例を理解できるようにしておくこと。講義中の電子辞書（スマートフォンは不可）の使用は許可するが、予習の時点で解決しておくことを推奨する。基本的なPCの操作（ソフトウェア起動終了、日本語入力、ファイル処理等）とWebによる情報収集、メールソフトの操作ができること。他人の学習意欲を減少させるとと思われる行為は学生・SAなどの報告により評価（減点）対象とする。		
教科書	大学生のためのレポート・論文術 小笠原 喜康（著）、その他 都度指示		
参考文献及び指定図書	知へのステップ、ほかゼミナールにて使用した参考書、専門分野の参考書を用います。各種データベース		
関連科目	ゼミナールA、ゼミナールB		

○基本情報		
授業の目的	・情報システム分野を中心とした研究を行う事により、現代における情報産業やサービスを取り囲む位置づけと役割を認識し、自己進路の指標を得る。 ・先人の研究を元に、問題点を指摘しその指摘を明らかにするために、自らテーマを掲げ取り組みを行う。取り組みは計画性をもって期限を意識した取り組みを行う。 ・JIS X4051「日本語文書の組版方法」および、JIS Z9041「データの統計的な解釈方法」、JIS Z 8202「量及び単位」に沿った報告書を作成することができるようになる。	
授業の概要	年間の取り組みとなります。 中間発表や期末発表などについては、あらかじめ掲示板等に通知されるものを自ら判断しスケジューリングします。 問題を発見する力、解決のための方法を立案する力、実施する力、取り組みをまとめ報告する力を総合的に涵養します 具体的には、テーマ決定後、計画の立案、実験（調査）を通して技術論文の修得を図る。	
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「演習形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」
	(3) アクティブ・ラーニング	「PBL（課題解決型学習）」
地域志向科目	カテゴリー Ⅲ：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
実務経験のある教員による授業科目	該当しない	

○成績評価の指標		○成績評価基準（合計100点）		
到達目標の観点	到達目標	テスト （期末試験・中間確	提出物 （レポート・作品等）	無形成果 （発表・その他）
【関心・意欲・態度】	スケジュール管理と具体的な行動が伴う。			10点
【知識・理解】	既往データ、文献等から身の回りの社会を認識・理解し、どこにひずみがあるかを把握できる		20点	
【技能・表現・コミュニケーション】	これまで学習してきた、各種ツールを用いて効率よく取り組みをまとめることができる。 客観的に自己の発表・論文を評価し改善できる		50点	
【思考・判断・創造】	取り組みにより得た内容を元に自らの思考・判断することができる。 研究内容を元に、応用することや創造することなど発展的な思考ができる。		10点	10点

○成績評価の補足（具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法）
■達成水準の目安は以下の通りです。（講義への取り組み態度として15回の講義を評価します） [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 ／[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 ／[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 ／[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。 知識・理解：卒業論文を執筆するにあたり必要な事項の知識、理解がある ／技能：コストを意識した技術・操作ができる ／思考・判断・表現：適切な資料の検索、取得と発表・スケジュールの設置と修正 ／関心・意欲・態度：年間を通じた総合的な取り組みと期限内の各種提出物の完成 ■最終課題のフィードバックは12月に行う発表後に総合的に行う。ただし段階毎では評価軸が明確になっているものについては助言、相談を行う。

○その他
■課題について 卒業研究を行い、その研究を卒業論文および梗概、プレゼン資料（パワーポイント、ポスター）にまとめます。締切と遵守し取り組むようにしてください。
■出席・欠席等について 主体的に研究内容と、スケジュールを設計し活動してください。
■教室について 学科全体講義以外の個々の活動は、4504教室を中心に活動します。
■評価について テストは実施しない。評価は、都度設定する報告およびポスターを主体とする。
■実務経験 （1998年～2000年）鹿児島ケーブルテレビ放送株式会社に勤務。社内機器および貸与機器の運用管理、制作業務および送出業務に従事。第一種電気通信事業者の認可申請業務にあたる(当時の郵政省)。インターネットプロバイダ事業に用いる機器および、放送送出機器の運営を主業務とする。SNMPで管理されるMACをデータベースを構築し管理した。併せて自社および他社のWEBサイトの構築に従事。 （2000年 -2006年）日本文理大学NBUメディアセンターに勤務。学内LAN、イントラネットサーバの運用管理・開発、および工学部情報メディア学科技術員として運用管理に従事。多種業務をデータベースシステムに移管し業務の効率化を図った。

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画		科目名	卒業研究（Graduation Thesis）	授業コード	P170302
		担当教員	濱田 大助		
学修内容					
1. スケジュール確認					
これまで学習をしてきたことを振り返り、論文のテーマを決定します。卒業研究に関するスケジュールを確認します。					
予習	ゼミナールの取り組みの見直しとファイル化				約2時間
復習	自己のスケジュールとの差異を確認します。				約2時間
2. テーマおよびスケジュールの決定					
テーマとスケジュールを作成します。					
予習	取組内容となるテーマに関する文献のリストアップ				約2時間
復習	テーマと問題点を決定				約2時間
3. テーマとポイントの明確化					
話題を絞り込み、最終的な主張を定めます。 △テーマ提出(WEB)					
予習	問題点に対する関連情報の収集				約2時間
復習	スケジュールの再構築				約2時間
4. 参考文献による調査					
図書館やインターネットから参考文献を探します。					
予習	関連情報の収集と取り組み内容の策定				約2時間
復習	取り組み内容の妥当性確認				約2時間
5. 先行研究調査と、実験計画					
参考文献を元に材料を整理し構成を考える。また構成に応じて、実験や調査の対象と内容を確定する					
予習	取り組み内容の妥当性と、先行研究との違いについて確認				約2時間
復習	スケジュールの再構築				約2時間
6. 事前検証					
実験及び調査内容が適切であるか？信ぴょう性の担保のための確認。 先行研究との違いについてまとめる					
予習	信ぴょう性の担保を行うための方策を立案				約2時間
復習	見直し				約2時間
7. 発表準備					
研究実施と中間発表の準備					
予習	中間発表(ポスター)用の情報収集				約2時間
復習	ポスターの作成(デジタルデータ)				約2時間
8. 発表(中間)					
まとめ・中間発表・夏季休暇の計画 △中間発表(ポスター)					
予習	当初テーマと現状の取り組みのブレと現実性について確認				約2時間
復習	指摘事項があれば、検討する長期休暇のスケジュールリング				約2時間

○授業計画	科目名 担当教員	卒業研究（Graduation Thesis） 濱田 大助	授業コード	P170302
学修内容				
9. 発表後の再確認 振り返りを行い、テーマ（目標および最終地点）の再確認				
予習	テーマに沿った取り組み			約2時間
復習	テーマに沿った取り組み			約2時間
10. 実験 結果分析と追実験・追調査の検討、並行して論文執筆の用意開始				
予習	テーマに沿った取り組み			約2時間
復習	テーマに沿った取り組み			約2時間
11. 実験 実験等の取り組み				
予習	テーマに沿った取り組み			約2時間
復習	テーマに沿った取り組み			約2時間
12. ～26 実験および評価、執筆 実験等の取り組みと、まとめ、論文の執筆および指導の為の提出 テーマ、梗概(概要)、論文、プレゼンテーション資料の提出に向けた調整 論文と発表、ポスター等を用いての解説など通知される手法に沿って期限内に用意します。				
予習	テーマに沿った取り組み			約2時間
復習	テーマに沿った取り組み			約2時間
13. 発表(期末) 期末試験(卒研最終発表) △コース毎の期末試験(テーマ、概要、論文、パワーポイント)				
予習	発表資料並びに、各種提出書類の提出用意			約2時間
復習	活動の振り返りと指摘点の反映			約2時間
14. まとめ 論文の仕上げと、次学年への説明・引継ぎ、最終発表までの計画と実施				
予習	総仕上げ、引継ぎの用意			約2時間
復習	総仕上げ			約2時間
15. 最終発表の準備 最終発表の用意				
予習	ポスターの用意			約2時間
復習	最終確認			約2時間
16. 最終発表 最終発表 △最終発表(ポスターのみ)				
予習	発表の練習			
復習				